

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 6月 30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101011
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホーム あすなろ
所在地	鹿児島市高麗町21番29号 (電話) 099-251-8686
自己評価作成日	平成26年6月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の1階部分が診療所、2階3階がグループホームとなっており、医療面での対応が充実しています。環境も市街地にあり利便性が高く、また長年診療所として地域との交流もあり、公園や学校なども隣接しており季節を感じながら生活できます。入居者様が今まで生活して来られた状況を大切に考え、出来る事はご自分でしていただけるように見守りながら、自分の望む生活が続けられるように自立支援を行っております。またご自分のお好きな事や今までやってこられた趣味を続けながら、楽しみや生きがいに繋がるように支援しております。年2回、家族交流会を開催し、ご家族同士の交流も深めてもらえるように和やかな雰囲気です。食事会など行っています。また職員の質の向上に努めており、毎月議題を決めて職員研修を行い介護の実践に役立てており、介護福祉士の資格修得にも施設をあげて協力体制をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、鹿児島市中心部に位置しており、目の前には公園やコンビニエンスストアなどがあり利用者が日常的に散歩や買い物などをできる環境にある。1階が系列のクリニックになっており、2階と3階にグループホームを開設して2年目を迎える。1階のクリニックとの医療連携体制や協力医療機関との連携など、緊急時の対応も密にとられており、利用者、家族の安心が得られている。比較的、介護度が軽い利用者が多数であり、管理者は「職員全員で、利用者の歴史を看させてもらう」という強い思いがあり、そのことは職員全員の共有意識になっており、これから迎える重度化や終末期に於いても最後まで質の高いケアを目指して日々努力をしている。2階と3階の利用者18人全ての情報や個々に応じた介護の仕方などを、職員全員が対応できるように、2ユニット間で期間を決めて職員の異動を行っており、実務研修や学びの機会を多く持つ事で介護技術のレベルアップに繋げられるなどの勤務体制の工夫もしている。

長年診療所として地域に貢献してきた関係性から、民生委員や町内会長とも懇意な関係もあり、町内会の回覧板も含めて、今後は、ホーム内の行事案内や運営推進会議、消防訓練など地域住民の参加の呼び掛けを拡大していくことで地域との協働の関係を築いていく方向である。

利用者は皆、和やかな表情でゆったりとした時間を過ごしており、理念である「明るく・楽しく・希望に満ちた」を管理者、職員が共に実践している。利用者の歴史を刻みながら、様々な取り組みが期待出来るグループホームである。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	1F玄関前と各ユニットのフロアに掲示しており、常に眼にして確認しながら介護を行っている。また、週に一度ケアカンファレンスで唱和して確認し合っている。	利用者が楽しく明るく生活でき、自宅で過ごす状態に近いケアの支援に努めている。職員各々が生き生きと働いており、ホームが目指すサービスを理念を通して実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長年、診療所として地域と交流があり、町内会にも入会しており、そのため近隣を散歩していると声をかけて頂いている。また、地域の民生委員との交流も図っている。	長年の地域診療を担ってきた歴史があり、町内会長や民生委員との懇意な関係性はあるが、地域行事に出向く機会は無く、ホーム行事や消防訓練への地域住民の参加もまだない。今後は、しめ縄作りや、サマーボランティアで小学生から大学生までを受け入れ、地区の文化祭への作品出品などを予定している。	地域密着の意義を踏まえ、積極的に地域との交流の機会を実現し、認知症ケアに関する相談窓口など地域での役割を担い、協働の関係を築いていく事を期待したい。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症についての相談やグループホームへの入所相談は出来るだけわかりやすく丁寧に応じるように心がけている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一回、家族や民生委員、長寿あんしん相談センターの職員の方々に参加していただき、年間行事報告や感染対策、災害時の対応などにご意見を伺い、改善や質の向上に活かしている。	民生委員・地域包括センター・家族・職員などの参加を得て、2カ月毎に開催されている。ホームの現情報告や地域との関係構築などの課題を取り上げ意見やアドバイスを貰い改善点を見出す努力をしている。今後は警察・消防・お寺の住職など出席者の幅を広めて行く方向である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れにより、入居者様の希望や意見を参考に、サービスの質の向上に役立ててる。	更新時や事故報告など、事あるごとに、担当窓口を訪問して相談や情報交換ができており、良好な関係が保たれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で身体拘束について学習し、身体拘束の弊害や禁止となる具体的な行為を話し合い、常に自分自身のケアを振り返り、身体拘束をしないケアを行っている。	管理者は日常的なケアの中で、特に自覚のない言葉に依る身体拘束についての弊害を重んじている。具体的な事例などを出し合い研修を通して職員の意識を高めており、利用者が穏やかに暮らせる様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で高齢者虐待防止法等について学習し、虐待の具体的な内容や発見時の対応など話し合い、虐待をしない介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに日常生活自立支援制度や成年後見人について職員に説明している。利用される方があれば管理者を中心に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、改定時は随時、内容を声に出しながら説明を行い、理解されたかを確認している。また、その都度疑問点がないか尋ね、納得しているか確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や運営推進会議等で要望を問いかけたり、ご家族が面会に来られた際は声かけしたり話しやすい雰囲気を作っている。出された意見や要望はケアカンファレンスで話し合っている。	介護相談員の受け入れ態勢も整っており、利用者が外部に意見や要望を伝える機会も設けている。年2回の家族会には県外から帰省する家族もあり、食事会などは、意見や要望の聞き取りの大切な機会になっている。管理者は、面会時には挨拶に出向き現状報告や要望の聞き取りをするなど、常に意見や要望が言い易い雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者と職員は週一回のミーティングを行い意見交換を行っている。出された意見や提案は前向きに検討し、よりよい施設になるように取り組んでいる。	週一回のミーティング時に、現場の気付きや改善点の話し合いの場を持ち、全員が周知し、改善に繋げサービスの質を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長はミーティングや時間を作っては施設に来られスタッフの労をねぎらったり、元気づけて下さったりしている。また資格修得にも理解があり、各自の向上心を大切にして援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員研修を行い、介護の質を高めるように努めている。外部の研修にも参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループの管理者と事例検討を行うなどして質の向上に役立てている。また、長寿あんしんセンターなどの交流会や研修の機会を活かし情報交換を行い、施設や職員の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行いながら利用者の希望や困りごと、不安を聞き取り、要望に応え安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や困りごと不安などを聴き、疑問には丁寧に応え、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要かどうか、利用者やご家族の思いや状況を確認し、その方にとって必要なサービスを柔軟に検討し、必要であれば他のサービスの紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者は共に生活する者同士であり、人生の先輩であることを理解しており、利用者が出来る事は見守り、出来ないことは手伝うというようなお互いが支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を多く持っていただき、情緒面でのケアをお願いし、利用者様が安心して生活できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚が自由に面会でき、これまでの関係が途切れることなく継続できるように支援している。	友人や親せきの来訪も多くある。介護度が低い利用者が多いことから、馴染みの美容室や墓参り・お寺参りなどおしゃれを楽しみながら、自由に出掛けており、これまでの生活の継続が十分にできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士の交流する中で良好な関係が築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談に応じる事を伝え、退居後も入院先へ状態を見に行ったり電話をもらったりして、相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族から希望する暮らしを聴き、職員と家族の協力を得て実現できるように努めている。入居後も日々のかかわりの中で利用者の意向をくみ取るように努めている。	意思表示を出来る利用者が殆どである。困難な場合には日常の触れ合いの中で、表情や言動を職員間で見極めながら本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族や関係者から情報を得るようにしている。入居後も折にふれご本人から今までの生活状況やサービスの利用等を聴き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活のリズムや心身状態の把握に努め、現状に沿った生活が出来るように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、職員、主治医と利用者がよりよく暮らすために介護方針を話し合い、介護計画を現状に合ったものであるかを検討している。	日々の関わりの中で、利用者や家族の思いを聞き取り、利用者主体の暮らしを反映できる介護計画の作成をしている。今後は日常的な取り組みや地域資源の活用など細かな支援も組み込んでいく方向である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気づきを業務日誌、ケース記録、申し送りノートに書き込んだ内容を週1回のケアカンファレンス等を通して情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや買い物など利用者や家族の希望や状況に臨機応変に対応し、利用者や家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活できるように地域の民生委員や警察、消防署に協力をお願いしている。介護体験やサマーボランティア等を受け入れ、利用者が豊かな暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や診療内容の希望を伺い、利用者や家族の意向に沿うように努めている。また、受診時、適切な治療が受けられるように情報提供を行っている。	本人家族の希望するかかりつけ医の継続や、ホームの協力医療機関を利用している。初診時は必ずホー側から同行し利用者の情報提供を密にしている。夜間も24時間体制の訪問看護の連携も密であり、利用者が適切な医療がうけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1Fに診療所があるので、血圧や体温の異常に気がついた時はすぐに連絡ができる体制になっている。また、訪問看護師とも連携しており24時間体制で相談や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、介護サマリーや薬剤情報を提供して医療がスムーズに行われるように努めている。また、担当医の説明には家族の同意を得て同席し、退院支援にも早い段階からかかわるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に係る対応の指針を定め、入居時に家族に説明し同意を得ている。また、状況に応じて家族や主治医と話し合う機会を持ち、施設での終末期を希望される場合は、訪問診療や訪問看護師、職員で共に協力しながら支援できるように取り組んでいる。	まだ看取りの経験はないが、今後、看取りを希望している利用者もあり、入居時に重度化や終末期のケアに係るホーム側の指針を説明し同意を得ている。利用者の身体状況に応じて、家族と主治医を含めた話し合いを繰り返し、職員も方向性を共有しホームでできる最大限の支援に取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置のマニュアル作成や研修を行っている。実際には看護師や主治医に連絡し指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害のマニュアルを作成し、年2回消防訓練を実施し、災害時の避難体制を職員間で話し合っている。また、運営推進会議等で訓練の内容を提示してアドバイスを頂いたりしている。	年に2回の消防訓練を行っている。地域住民の参加は得られておらず、運営推進会議でも民生委員を招いてホームの課題にあげて地域との協力体制の構築にアドバイスを貰っている。地震に向けた対策も考えており、頭巾などの備えや備蓄も検討していく方向である。次回の運営推進会議で避難訓練も合わせて執り行う予定である。	運営推進会議に地域地域住民の参加を呼び掛け、建物の構造を見てもらうなどし避難経路や誘導の仕方など協力を貰える様な取り組みが望ましい。あらゆるリスクを想定し、必要最低限の備蓄も検討されたい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時などプライバシーや個人の人格を尊重するように配慮している。入居者は共に生活する家族であり人生の先輩であることを忘れずに尊敬の気持ちを持って丁寧に接する様に心がけている。	見守りを徹底し、各居室などのプライベート空間で過ごす時間も大切にしている。入浴や排泄時等には特に尊厳に配慮し、何気無い誘導を心掛けている。名前の呼び方は家族の同意を得、個々に応じて常に尊敬の念を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に理解を示し、何事も利用者の気持ちを最優先し、利用者が自分で決めて納得のいく生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はある程度決められているが、それ以外は入居者のペースで生活していただいている。また、外出やレクレーション等は利用者の意向を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日、服も自分で選んでもらい、アクセサリーなどの装飾品も好きに付けてもらっている。訪問美容室も定期的に来ており好きな髪形を楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握し、旬の素材を使い行事食などメニューにも工夫を凝らしている。献立を一緒に決めたり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み会話しながら食事を楽しむように心がけている。	茶わん洗いや野菜の下ごしらえなど出来る事は手伝ってもらい職員と共に食卓を囲み食事が楽しみな時間になる工夫をしている。誕生会やひな祭り、クリスマスやおせち料理など季節を感じさせる行事食も豊富である。家族と外食に出掛ける利用者もいる	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は利用者ごとに記録し、定期的な体重測定や排泄状態も見ながら健康状態を把握している。また、食事量が極端に少ない場合は主治医に相談するなどの対応を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い職員が傍で見守り、綺麗になったかを一人ひとり確認している。一人で出来ない方は職員が義歯と口の中を綺麗に磨いている。また、毎日義歯は預かって職員が洗浄している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけでトイレでの排泄が出来るように支援している。	ユニットで差はあるが、トイレでの排泄は自立している利用者も多くいる。ポータブルトイレは夜間体のみで使用で、日中はリハビリパンツの使用であるが、排泄チェック表による個別の適時な誘導が活かされており、改善や現状維持に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量のチェックを行い定期的な排泄があるように努めている。また、排便困難者には日ごろから飲み物にオリゴ糖を混ぜるなど、工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日曜日以外は毎日、入浴できる状態になっている。入浴の曜日は決めているが、入居者の希望で臨機応変に対応している。入浴方法も見守りだけの方や全介助や部介助が必要な方など入居者の状態にあった支援を行っている。	週3回を目安に入浴できるように支援している。重度化への対応で特殊浴も備えており浴槽での入浴を楽しめることから喜ばれている。異性介助も問題なく、会話を楽しみながらゆったりと入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、御自分のペースで横になって頂いている。昼間は出来るだけ活動していただき、夜は良眠していただくように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬の内容や用量、用法を確認できるようになっている。薬の処方の変更は申し送りノートに記録し職員が情報を共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事や好きな事をご本人や家族から情報を得ており、編み物、詩吟、音楽など一人ひとりの生活に楽しみが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて散歩など出かけている。また、ご家族と外食やお墓参り、自宅への外出などの機会が持てるように支援している。	定期受診を兼ね月1回は外泊する利用者もいる。近隣の散歩やコンビニエンスストアでの買い物など気軽に外出できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望により本人でお金を管理していただき、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の中には携帯電話を持っている方もいて、自由に電話が出来る状態である。また本人が希望すれば施設から電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。手紙も書かれた時は投函するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をリビングに飾り、季節を感じてもらっている。施設全体を清潔に保ち、カーテンなども落ち着いた色を選び。過ごしやすい空間を作れるように努めている。	リビングの一角には、大型の仏壇が据えられており、利用者は朝夕に自由に手を合わせて落ち着ける場所となっている。ホーム全体に掃除が行き届き、臭いもなく、清潔感が漂っている。見守りに配慮した対面キッチンになっており、利用者はテレビを観たり、思い思いの時間を過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにイスをおき、そこで利用者が一人になったり、気の合う者同士で過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた家具などを持ってきて頂くようお願いしており、利用者がご自分の趣味で部屋を飾られて居心地の良い空間を作っている。	備付にはベッドや洗面台があり、テレビの持ち込みや家族写真、ぬいぐるみなど利用者の思い入れの深い品々が置かれ、個性があり、安心して過ごせるプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室など手すりは付いており、安全に移動できるように配慮されている。施設内は段差がなくバリアフリーになっており車イスの方もスムーズに移動できるようになっている。また、長い廊下を活かして歩行訓練も行われている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない